



～礼儀と節度を考える～

# 平成武師道

## 〈人間活動学〉

時が進む度に日本が狭くなっていく。

尖閣や北方問題が起こり、海の向こうから次々と異国の力が、この小さな島国に迫って来る。

振り返れば、今までこの小さな島国は、よく異国の植民地にならなかったものだ。

しかし、現実にはアメリカに戦争で敗れ、占領されてしまい、今まで培われた昔からの文化や歴史が踏みにじられる結果になってしまった。

我々は確かに偉そうな事を言っても「戦争を知らない子供たち」だ。

戦時中から比べると、ぬくぬくと温室で育ってきたモヤシっ子かも知れない。

それでも、今我々は声を大にして言わなければならない。

「しっかりしようぜ。俺たち！」

平成のこの時代に生きている我々は、一体何をしてきただろう。

そして、次の時代に何を残していけるのだろうか？

昭和までの時代は、命懸けで守るものがあつた。

それが今ではどうだろう。

せっかく受け継がれてきたもの、伝えていかなければならないもの。

そんな堅苦しい事要らないよ。

面倒臭い。

全て台なしだ。

我々は何を甘えていたのだ。

権利ばかり主張して、義務を果たさない国民。

新しい階段を登り、次の舞台に行く義務を忘れてる我々。

そんな事だから他国につけ込まれるのだ。

毅然たる態度で、来るなら来い！という意思表示を見せつけるべきだ。

やはり日本はナメられている。

くだらないワイドショーレベルで、自らの総理大臣をバカにし、尖閣のビデオ問題でも捜査官になったつもりで茶化している。

国民自身も人事のように他人任せ。

こんなグズグズな状態ではいつまで経ってもこの島国は、はい上がれないだろう。

それどころか数十年後くらいには戦争が起こり、日本はなくなっているかも知れない。

本当に恐ろしい事だ。

だから私は言う。

小さな島国に住んでいる人たちよ、もっと誇りある正義を持って！せめて、自分の生活が苦しくても、少しぐらいはこの国を意識しろ。駄目だ、駄目だと言うのなら、我々ひとりひとりが日本を守ろうと意識しよう。

もう武力で戦えない国なんだ。

だからこそ、心で、志だけでも負けないで、強く持とうではないか。

ひとりひとりが強く意識し、次の世代に胸を張ってバトンタッチができるように頑張っていこう！

そして、どんな国にも自信を持って、こう言える様になろう。

「この国は小さな島国だけど、住んでいる人たちの気持ちや勇氣は大きくて強いんだ。」



佐々木